

情報収集の最前線

大規模災害時、孤立集落が発生した場合に、機動力を発揮して情報収集に当たるのが町災害対策本部のオフロードバイク隊「KEEP」だ。

道路が寸断され自動車では立ち入ることができない孤立した場所であっても、オフロードバイクを駆る隊員たちが勇猛果敢に突き進む。町全域の道路状況、要救助者の有無、ライフラインの現状など、現地でしか知り得ない生の情報を収集し、アマチュア無線を駆使して本部に届ける。本部ではその情報を元に、避難誘導や救助、災害復旧などの対策を立てていく。

訓練が威力を発揮

オフロードバイク隊KEEP P（以下バイク隊）は平成17年11月、隊員6人とバイク3台の体制で発足した。個々の隊員は、自動2輪免許を持つ役場各課の男性職員だ。大規模災害時、町災害対策本部長（町長）の命を受けて活動は開始される。

大規模災害の発生時、山野を駆け抜け抜け情報を収集

町災害対策本部の斥候部隊 オフロードバイク隊KEEP

さんは企画課に勤務する職員。バイク隊発足当初から所属するベテラン隊員だ。

「隊員は常に操縦訓練を欠かしません。町内での実走訓練や、静岡市オフロードバイク隊および自衛隊との共同訓練のほかにも、休日などを使って自主的に練習する隊員が多いです。障害物乗り越えたり、狭い場所で旋回したり、悪路を走破したり…。最初のころは転倒してばかりでしたが、今では格段に技術が向上しています。日ごろの訓練がいざというときに物を言う任務ですから」と話す。

現在は8人・バイク6台の体制。災害発生時には2人1組となり、町内を3つのエリアに分けて情報収集に当たる。「避難の様子やヘリポートの開設状況、アマチュア無線



町オフロードバイク隊 服部了士隊長（千頭）

の通信状況など、任務は多岐にわたります。また災害時には全員が出動できるとは限りませんが、どの隊員も町内全域をカバーできるよう、普段の訓練も工夫しています。バイク隊の活動には危険も伴います。出動時は常に本部と連絡を取り合い、隊員同士の安全確保に努めています。大規模災害時に一番重要なこと。それは正確な情報を一刻も早くつかみ、対策につなげること。機動性にすぐれたバイク隊から届く迅速な情報が、災害発生初期の救助や対策に大きく貢献する。



1 7月18日訓練にて。バイクはアマチュア無線装備の特別仕様だ 2 河川の護岸を駆け上る 3 中川根南部小でバイク隊を説明。児童たちの目も輝く 4 山道を走破。自動車では真似のできない機動性だ

オフロードバイク隊KEEPの「KEEP」には、次のような意味が込められています。
K…Kawanehoncho E…Emergency E…Effective P…Persons
川根本町の 緊急事態に 効果のある 集団

第3章 これからの備え

わたしたち一人一人にできること

8月の大きな地震から3カ月、台風18号の襲来から2カ月が過ぎ

災害の記憶は、すでに風化しつつある

忘れないために、生かすために、

話し合うことから始めよう

わたしたちにできること

わたしたちがすべきこと

「いつか」ではなく、「今から」

